

2 児童・生徒が安心してアンケートに向かうために

アンケートによって正確な情報を得るためには、児童・生徒が安心して記述できるよう環境を整えることが必要です。

例えば、「アンケートに書いた内容について誰にも否定されない」「書いたことで後で仕返しされることがない」など、児童・生徒が教職員を信頼して書くことができるよう日ごろから信頼関係を構築することが重要です。

また、児童・生徒が「記入してよかった」「アンケートはムダではない」という思いを持つためには、アンケートの結果がその後の対応に生かされ、解決に向かったという実感が持てる取り組みを行う必要があります。

学校全体で、児童・生徒が安心してアンケートに向かうことができる取組みについて話し合い、児童・生徒の人権に配慮しながらチームで対応することが大切です。

<一人ひとりの特性に応じた対応を>

日ごろから子どもたち一人ひとりが自己肯定感を高められるよう、「わかる授業」や「子どものよさを生かした活動や行事」などを工夫することが大切です。とくに、学習面や行動面に困難のある児童・生徒に対して教師が適切な支援をすることで、誰もが安心して過ごすことができる和やかで思いやりにあふれた学級の雰囲気となります。また、発達障害のある児童・生徒や、身体やコミュニケーションに特徴のある児童・生徒に対して、学校・学級・部活動等に肯定的なムードをつくるのが大切です。

<児童虐待といじめ>

子どもの不安定な心理状態や自己肯定感の低さが、いじめや暴力行為といった問題行動を引き起こすことがあります。攻撃的な問題行動の背景として、児童虐待の可能性も考えられます。

児童虐待やその傾向のある家庭環境に置かれている等、不安定な心理状態であったり自己肯定感の低い児童・生徒に対し、日ごろから活躍できる場を設定するなど、児童・生徒の気持ちがいよ方向に向くような取組みを工夫するとともに、家庭環境の問題には、早期に関係機関と連携した支援を行う必要があります。

